

県メガソーラー協定公募

春

審査2件通過着工へ 今

県は十二日、発電能力が一メガワット以上の太陽光発電システム（メガソーラー）を導入する企業と結ぶ「メガソーラー・パートナー協定」の公募

で、二件が最終審査を通過したと発表した。いずれも発電事業を目的としている。今春にも同協定を結び、着工する見通し。

県総合政策課によると、一件は、東京の環境コンサルタント会社「国際環境ソリューションズ」を中心とする東京、石川県の四社が共同提

案。都農町の元リニアモーターカー実験線（約四・五キロ）にわたって一メガワットの同システムを設置する計画。

二〇一〇年度の建設、二一年度からの発電を目指す。二酸化炭素（CO₂）を出さない電力を示す「グリーン電力証書」の販売も検討。

別の一件を提案しているのは、企業の省エネ管理を請け負う「大和エネルギー」（大阪府）を中心とする矢野興業（宮崎市）など三社。一メガワットの同システムを設置する県有

地を選んでいる段階で、〇九年度の建設、一〇年度の発電を目指している。グリーン電力証書の販売や環境教育で活用する考えだ。

国の〇九年度予算案には、一メガワット以上の同システムを民間が自治体と連携して導入すると、経費の補助を三分の一から半分に引き上げる制度が盛り込まれた。協定締結により同制度が適用された場合、約七億円といわれる経費が半額となる。

県は〇九年度当初予算案

に、企業の事前調査を支援する事業費千五百万円を計上した。